

鹿児島県出水市におけるツルとの持続的な共生に向けた社会環境づくり

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

勉強会参加者	91人
バスツアー乗車者	595人
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	80%



ツル渡来地の現状を伝えるガイドバスを運行

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

地域の状況を実感を伴い発信でき、来訪者との交流を通じた意識変化も期待できるため、住民からガイドを募集しバスツアーを実施したが、事前調整が非常に煩雑となった。

■ 工夫した点

ツルの存在が直接影響を及ぼす農業・漁業に従事する住民の意識を変えるため、勉強会では、他地域において同じく一次産業に従事しつつ地域振興に携わる講師を選定した。

課題

- ツルの飛来が一部の市民に不利益をもたらしており、地域資源として活用されていない
- ツルの保全や分散の取組みに対する一般的な関心・理解が低い

目標

ツルを地域資源として活用し、ツルやツルと暮らす地域の現状を多くの人に伝え、食害や風評被害等の地域が抱える課題を多くの国民で負担する仕組みを作る。

活動内容と成果

- 勉強会を開催し市民を中心に90人以上が参集。参加者からは、ツルとの共生を通じた地域の農業・漁業や歴史等をいかした観光の可能性について理解が深まり、持続的な共生に向け資源として活用することへの理解が得られた
- ツル観察に訪れた観光客への啓発を目的にガイド付きバスを運行。1、2月の週末に4日間で595人が乗車。市内の小中学生や農業・漁業に携わる住民がボランティアで解説を行い、来訪者へ地域の現状を直接伝えることができた



普及啓発を兼ねた対面アンケート調査の実施



市民向け勉強会の開催風景

全助成期間の活動を振り返って

3年連続してイベントを実施したことで認知度が高まり、理解を示す市民や継続して運営に協力する個人や機関が出てきたことは大きな成果といえる。また、当初は現地の自然保護官事務所と当協会の助成事業として運営してきたが最終年には自治体も実施主体に加わり、さらに地元企業の協賛も得られるなど活動に広がりが出た。次年度以降も取組み継続を希望する声はあるものの、そのため体制を確立することはかなわなかった。

| 活動地域 |  鹿児島県出水市

〒171-0021
東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
電話：03-5951-0244
<http://www.ecosys.or.jp/>



今後の展望

来年度からは出水市が2021年度を目標にツル渡来地のラムサール登録を目指すことが表明された。登録による注目を集め、ツルをはじめとした野鳥、出水の特産品である海苔等の地域資源を活かしたエコツーリズムを展開し地域の活性化を目指していく方針で、本助成活動で得られた来訪者からのアンケート結果や、構築した住民や教育機関、観光事業者等との連携体制、ガイドとして発掘した人材等はこうした市の事業推進の一助となる。